令和4年11月30日

令和４年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立若松原中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，令和４年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに，そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査期日

令和4年4月19日（火）

3　調査対象

小学校　第６学年（国語，算数，理科，児童質問紙）

中学校　第３学年（国語，数学，理科，生徒質問紙）

4　本校の参加状況

①　国語　　２００人

②　数学　　２００人

③　理科　　１９９人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年が限られており,実施教科が国語，数学，理科の３教科のみであることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，生徒が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

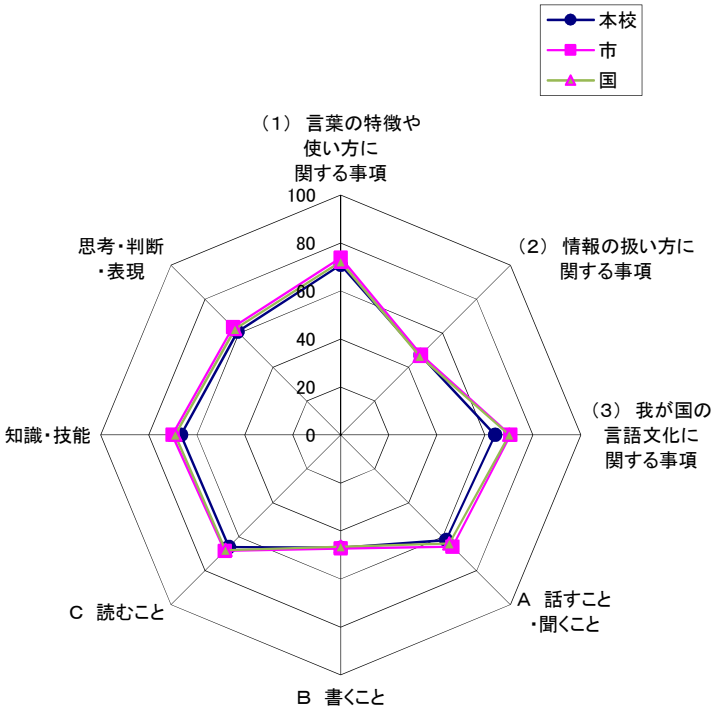
(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	（1） 言葉の特徴や使い方に関する事項	70.9	73.8	72.2
	（2） 情報の扱い方に関する事項	47.0	47.3	46.5
	（3） 我が国の言語文化に関する事項	64.3	70.7	70.2
	A 話すこと･聞くこと	62.0	65.9	63.9
	B 書くこと	47.0	47.3	46.5
	C 読むこと	66.0	68.3	67.9
観点	知識･技能	66.6	70.2	69.0
	思考･判断･表現	60.8	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

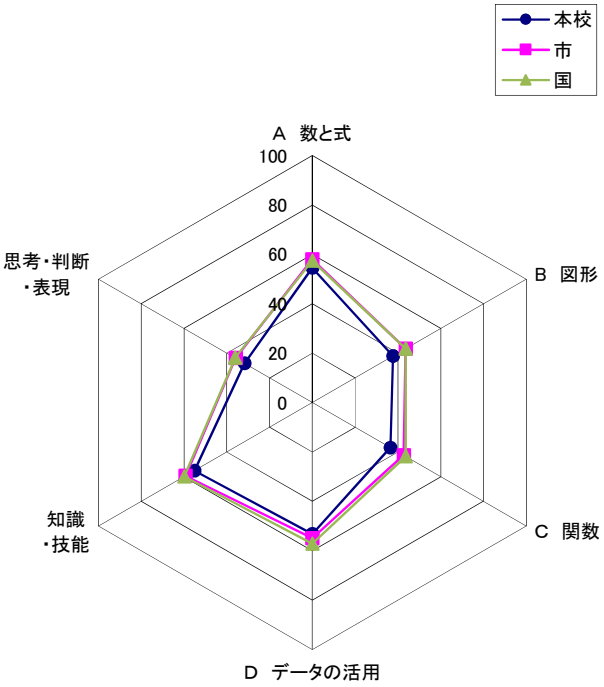
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
（1）言語の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の平均よりも2.9ポイント下回った。 ○表現技法についての問題の正答率は57.5%で，県の平均を.3.3ポイント上回った。 ●文脈に即して漢字を正しく書く問題の正答率は75.5%で，県の平均を5.3ポイント下回った。	･漢字テストを実施しているが，定着が不十分であると考えられるため，家庭学習の充実を図り，定着を促す。 ･今後は，文章の中で漢字を正しく使えるようにするため，文章を読みながら読解の指導とともに漢字の指導を充実させる。
（2）情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均よりも0.3ポイント低い。 ○資料の一部から必要な情報を引用する問題の正答率は47.0%で，県の平均を0.7ポイント下回ったが，国の平均は0.5ポイント上回った。	･授業の中で，一人一台端末を使った情報の収集は行っているが，図書室で図書を活用した情報収集の時間を確保するなど。学校図書館とも連携し，図書資料を用いた情報収集の方法と，情報の精選についての指導を充実させたい。
（3）我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均よりも6.4ポイント低い。 ●行書の特徴についての問題の正答率は31.5%で，県の平均を8.8ポイント下回った。 ●行書と調和した仮名の書き方についての問題の正答率は73.0%で，県の平均を8.1ポイント下回った。	･書写の時間に行書で字を書く機会を多く設けるなど，行書にふれる機会を増やし，行書についての指導の充実を図る。
A　話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均よりも3.9ポイント低い。 ○聞き手の興味･関心を考慮して表現を工夫する問題の正答率は76.0%で，県の平均を2.8ポイント上回った。 ●論理の展開に注意して聞く問題の正答率は60.5%で，県の平均を6.0ポイント下回った。	･話合い活動や発表，プレゼンテーションなどの機会を多く設けて，話す力の育成に努めた効果が表れたと考えられる。今後も話合い活動など自分の意見を聞き手にわかりやすく伝える工夫について丁寧に指導したい。 ･聞き取りテストを実施しているが十分な成果が表れていないので。今後は頻度を増やし，論理の展開をつかむための指導の充実を図る。
B　書くこと	平均正答率は市の平均よりも0.3ポイント低い。 ○自分の考えが伝わる文章になるように，根拠を明確にして書く問題の正答率は47.0%で，県の平均よりを県の平均を0.7ポイント下回ったが，国の平均は0.5ポイント上回った。	･授業の中で自分の考えを書かせる活動を積極的に実施し，徐々に効果が表れているため，今後も継続して丁寧に指導していく。 ･根拠を明確にした文章が書けるように，書くことの指導時のみでなく，読むことの指導時にも，根拠を探して考えとつなげて読み取るよう意識させることを心がけさせる。
C　読むこと	平均正答率は市の平均よりも2.3ポイント低い。 ○場面の展開や登場人物の心情の変化をとらえる問題の正答率は65.0%で，県の平均を4.2ポイント上回った。 ●場面と場面などを結び付けて内容を解釈する問題の正答率は67.0%で，県の平均を6.2ポイント下回った。	･説明文の読解の授業などで説明文への抵抗感をなくしたり，授業で扱った文章の関連図書の紹介をしたりして，小説だけでなく，さまざまなジャンルの図書に触れる機会を増やす。 ･図書委員会の活動が活発であり，読書に親しんでいる生徒が多く見られるので，今後も図書委員会と連携し，読書活動の充実を図りたい。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A　数と式	54.5	58.0	57.4
	B　図形	37.7	43.6	43.6
	C　関数	36.5	42.7	43.6
	D　データの活用	53.2	54.9	57.1
観点	知識・技能	55.1	59.3	59.9
	思考・判断・表現	31.7	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

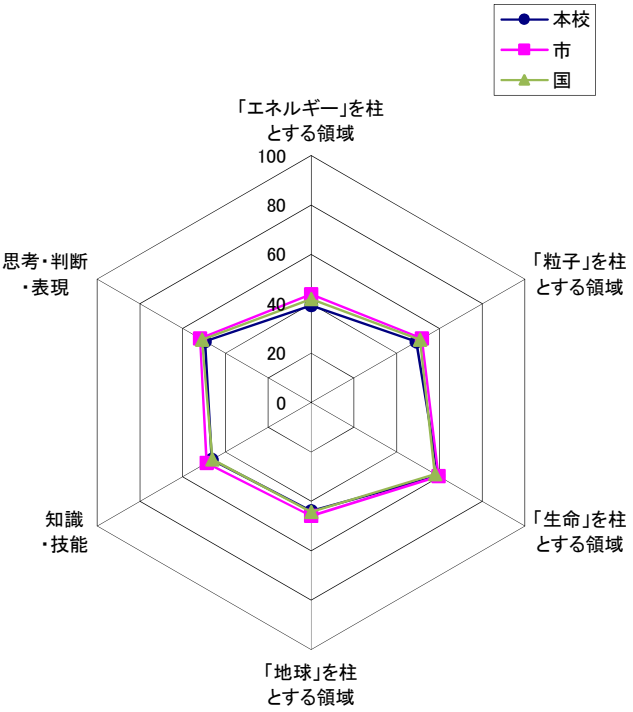
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A　数と式	平均正答率は，市の平均w3.5ポイント下回った。 ○素因数分解の問題は，県平均より5.1ポイント上回った。 ●連立二元一次方程式の問題は，県平均より6.4ポイント下回った。	・基本的な計算については，問題演習を継続していくとともに，習熟度別学習を生かした個に応じた指導のさらなる充実を図る。 ・発展的な問題については，文章問題などにおいて，その数が何を表しているのかを丁寧に扱い，解決の手段や適切な方法が見つけられるよう指導していく。
B　図形	平均正答率は，市の平均を5.9ポイント下回った。 ●どの図形の問題も県の平均より下回った。 ●証明に必要な三角形の合同条件を書く問題については，県平均をを3.8ポイント低い。	・図形の分野の課題について，必要な情報を問題文や図から読み取るために，図形の性質や特徴などを授業で丁寧に指導し，その情報を図形に書き込むことで解決していく。 ・図形の論証については，苦手意識が高いので，基本的な問題から段階的に指導し，理解を深めさせる。また，解答のみならず途中の考え方を大切に扱い，自分の考えを共有することで，論証の苦手意識をなくすよう努めていく。 ・PCやTVを利用し，図形を視覚的に捉えさせるよう教材の工夫を図る。
C　関数	平均正答率は，市の平均を6.2ポイント下回った。 ○与えられた表やグラフから，必要な情報を適切に読み取ることができる。 ●事象を数学的に解釈し，問題解決の方法を数学的に説明することが苦手である。 ●１次関数における表やグラフから必要な情報を読み取る問題は，県平均より5.4ポイント低く，変化の割合を読み取る問題は，県平均より8.2ポイント低い。	・関数の表，式，グラフのそれぞれの関係について，相関関係を考えることを意識させ，丁寧に指導を行い，さらなる基本事項の定着を図る。 ・授業で発展的な内容を取り扱う際に問題解決の方法を生徒同士で説明させるなどの機会を増やす。 ・比例と1次関数，１次関数と2乗に比例する関数との関連を図り，実生活に関わる例題を取り上げることで，関数の有用性を感得させ，理解を促すよう指導していく。
D　データの活用	平均正答率は，市の平均を1.7ポイント下回った。 ○確率の問題は，県の平均とほぼ同水準だった。 ○箱ひげ図から分布の特徴を読み取る問題は，県平均を1.3ポイント高い。 ●ヒストグラムについて説明をする問題については，県平均より6.4ポイント下回った。	・さらに力を伸ばすために，自分たちで資料をまとめさせ，資料の傾向を説明させるような課題解決型の学習を取り入れる。 ・資料の活用については，「平均値」「中央値」「最頻値」などの言葉の意味を丁寧に指導するとともに，確実に習得させるようにする。

宇都宮市立若松原中学校第３学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国，市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	39.3	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	49.2	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	59.5	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	43.9	45.9	44.3
観点	知識・技能	46.4	48.8	46.1
	思考・判断・表現	49.6	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均を4.5ポイント下回った。 ○物体が静電気を帯びる現象を選択する問題では，市の平均を4.3ポイント上回った。 ●ばねの縮む長さは，加える力の大きさに比例するかを考察するために必要なグラフを選択したり，考察の妥当性を高めるために測定範囲や刻み幅をどう調整すればよいかを説明したりする問題では，市の平均を6.0～8.0ポイント下回った。	・課題に正対した考察を行うためのグラフを作成したり，実験の計画を検討して改善したりできる力を養うために，実験の計画から考察まで思考力を高めるような実験の工夫・改善を行っていく。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均を2.6ポイント下回った。 ○分子のモデルで表した図を基に，水素の燃焼を化学反応式で表したり，液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する問題では，市の平均を1.6～4.5ポイント上回った。 ●水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について，適切なものを選択する問題では，市の平均を8.4ポイント下回った。	・水を電気分解して発生させた水素を燃料として使うしくみを探究する学習場面において，粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを分析して解釈できるような力を付けさせるような授業改善を行っていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均と同等である。また，県の平均を0.6ポイント上回った。 ○脊椎動物には，骨格のつくりに共通点があることから，カラスの関節に対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する問題やアリが視覚による情報を基に行列をつくるかを調べた実験の結果を基に課題に正対した考察を記述する問題では市の平均を1.4～1.8ポイント上回っており，特に生物Xが昆虫かどうかを観点と基準を明確にして判断する問題では市の平均を5.1ポイント上回った。 ●あしの様子が異なることについて生活場所や移動の仕方と関連付けてその理由を説明する問題では，市の平均を4.1ポイント下回った。	・節足動物の外部形態の観察結果と調べた内容を，生活場所や移動の仕方と関連付けて，体のつくりと働きを分析して解釈できるような力を身に着けさせるような授業改善を行っていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は，市の平均より2.0ポイント下回った。 ○上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断したり，玄武岩の露頭で化石の観察が可能か判断し，その理由を選択したりする問題では，市の平均を1.0ポイント上回った。 ●東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから地層が傾いている向きを選択する問題では，市の平均を4.0ポイント下回った。	・地層の広がりについて，時間的・空間的な見方を働かせながら，ルートマップと露頭のスケッチを関連付け，地層の傾きを分析して解釈できる力を身に着けさせるような授業改善を行っていく。

宇都宮市立若松原中学校 第３学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫　　○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○　本校生徒の携帯電話・スマートフォンの所持率は全国平均との比較で高く，「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について，家の人と約束したことを守っていますか」の質問の肯定割合も，82.3%（全国比+12.8ポイント）と高い。今後も家庭との連携を図り，情報モラルの指導を継続的に行っていく。

○「自分にはよいところがあると思いますか」の質問で肯定割合は，87.4%（全国比＋6.9ポイント）と高い。また，「先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問で肯定割合は92.4%（全国比＋3.8ポイント）と高い。自他ともに認め合い，自己肯定感を高める日々の取組が定着しつつある。今後も，本校生の良さを発揮できるように指導していく。

○「いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の質問で肯定割合は98.7%（全国比＋2.1ポイント）と高い。今後もいじめアンケートを含め早期対応に努めるとともに，定期的にいじめに関する指導を継続していく。

○「困りごとや不安があるときに，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問で肯定割合は73.2%（全国比＋16.6ポイント）と高い。教育相談の充実と，多くの教員がケースに応じて連携して対応することを継続していく。

●「家で自分で計画をたてて勉強していますか」の否定割合は，44.1%（全国比＋2.5ポイント）と高い。家庭での勉強時間は休日にが平日を上回るものの，「全く勉強しない」が、平日で6.6%（全国比＋1.7ポイント），休日で12.1%（全国＋1.9ポイント）である。学習習慣の確立について家庭と協力して指導していく。

●「普段の読書時間」では「全くしない」の回答が12.1%（全国比＋8.5ポイント）と高い。また，「読書が好きではない」の回答が8.2%（全国比＋5.0ポイント）と高い。「新聞を全く読まない」の回答も83.8%（全国比＋4.8ポイント）と活字離れが見られる。図書委員会の啓蒙活動や朝の読書を通して読書習慣を確立していけるよう継続して指導していく。

●「授業でのICT機器の活用において，ICT機器は勉強の役に立っている」という回答が61.6%である中、その活用は，意見を交換するための活用，自分の考えをまとめる場面での活用，発表する場面での活用となると肯定回答が低い。活用方法についても校内研修を重ね，充実を図っていく。

宇都宮市立若松原中学校（第３学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
ICT機器の利点を生かし，主体的，対話的で深い学びを実現するための授業改善を図る。	授業公開ウィークを実施するなど，校内研修の機会を設け，ICT機器を活用した授業を，互いに公開，参観し合うことで，ICT機器の効果的な活用を促進し，職員の授業力向上を図る。	「授業で，コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問に対し，昨年度は「週１回以上」の回答は10.4%（全国比−24.4ポイント）であったが，今年度は，個人用端末が整備されたことにより89.4%（全国比＋8.8ポイント）と改善された。今後は，活用の方法の工夫が課題である。
学習意欲の向上を図るための教材，教具の工夫改善	ICT機器を積極的に活用し，調べ学習や，学び合いの機会を増やすことで，子供の学習意欲を高めつつ，基礎基本の定着と記述等に粘り強く取り組む態度を育む。	国語や理科では解答を文章で書く問題。数学では説明する問題において，「書く問題は全く解答しなかった」が国語で3.5%（全国比＋1.1ポイント）），数学で，5.0%（全国比＋1.3ポイント），理科で，0.5%（全国比ー0.7ポイント）であった。教科による差はあるものの記述等に粘り強い取組にむけての授業の工夫を図る。

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「１日当たりどれくらい家庭学習しますか」の質問に，平日で2時間以上の割合が22.2%（全国比−13ポイント），休日で3時間以上の割合が13.2%（全国比ー7.4ポイント）であり，昨年度と比較しても低く家庭学習の量と質が課題である。	学力定着のため，家庭学習の習慣化と質の向上	授業とリンクした，考えさせたり，調べさせたりする活動を取り入れた宿題を積極的に出すことで，家庭学習の成果を実感させ，自主的に取り組もうとする意欲を高める。クロームブックのAIドリルを活用し，個に応じた課題で学習後は，家庭に持ち帰って家庭学習の充実と習慣化を図る。